

The Deadly Pivot Connection

米国のピボット(pivot: 旋回軸)「アジア回帰政策」よりも、私たちのピボット(pivot、旋回軸) 結束を

ウィリアム・グリフィン(William Griffin)

平和在郷軍人会(Veterans For Peace)

皆さん、こんにちは。平和、連帯闘争のために、皆さんとご一緒できて発表できることを光栄に思い、また感謝致します。

私は戦争を世界からなくすため、「平和在郷軍人会」を代表して米国からやってきました。私たちは昨年末にも済州島カンジョン(江汀)村の海軍基地建設反対で闘う平和運動家との連帯闘争のために訪韓しました。また、沖縄にも訪問しました。住民の激しい反対にも関わらず、今建設中の米軍基地の前で連帯闘争を行いました。米国のアジア回帰政策、今ではアジア・リバランス政策とよばれる米国の政策による軍事力強化に反対するために、各国の平和活動家が共同の闘いを繰り広げることになりました。

私は米陸軍空輸部隊にいたときに、アフガニスタンとイラクで戦争の惨状を目撃しました。2年間の戦闘地域での経験は、私にどのような紛争や戦争も解決策にはならないということを教えてくれました。戦争はより多くの紛争と問題を引き起こすだけです。米国が「テロとの戦争」を宣言した後に、むしろ多くのテロリストが生まれたただけでした。

続く戦争であふれかえる今の世界で、私たち平和活動家は各国の共通の闘いを確認し、過去の失敗に教訓を得て、大衆的な抵抗を組織、結集させて、よりオルタナティブな代案を提示させねばなりません。

最近、韓国で発表されたミサイル防衛体制、サード(高高度ミサイル防衛体制)は、アジア太平洋地域の軍事的緊張を高め、核による競争を加速させます。これは明白なことです。米国と同盟国は変化の兆しありません。ですから私たち平和活動家は、以前よりさら団結し、世界的平和のために声を一つにしていかなければなりません。

世界平和のためには、連帯のための共通の目的と共通の闘いを作っていく必要があります。私たちの共通の闘いは、軍事主義、戦争、軍備競争、気候変動、国家による暴力、多国籍企業や軍需産業に対し、抵抗することです。私たちの共通の目的は、持続可能な平和の獲得です。私たちの一歩は、互いの闘いに学び、民族的、地域的交流と連帯を通して、共通項を拡大させていくことです。

大衆闘争により軍事主義に抵抗するだけでなく、私たちは平和的な代替案を提示し、軍事主義、核拡散や国家や企業の暴力が蔓延する今の制度に対し、実現可能な解決策を提示しなければならないと思います。

ひいては、関連部門の活動家同士が互いにコミュニケーションをとる努力が必要です。気候変動や警察の暴力、環境正義など、他の部門の活動家から互いに学ぶことができます。このように活動すれば、暴力や武力よりも、協力や尊重こそ国益や世界にとって役立つことを確信させてくれるでしょう。

また、私たちは決して不正義を見過ごしてはいけません。ご存知の通り、正義がない平和はあり得ず、平和がなくては正義を打ち立てることは出来ません。ややもすると平和が緊張や暴力のない状態であるかのように誤解されがちですが、マーティン・ルーサー・キング牧師がおっしゃったように、平和は緊張の不在ではなく正義の実在なのです。

政府や経済機関は各国の市民社会に、毎日のように自由と権利を少しずつ制御し、強い圧迫を加えています。多国籍企業はもはや国家的領土に制限されることなく、国境を超えて目的達成のため新しい方法を探しています。私たち平和活動家も同じように、新たなモデルを作っていかなければなりません。私たちが住んでいる社会は、もはや独立して存在していないので、そのモデルも国境を超える新たなモデルでなければなりません。今こそ、私たち市民社会が不正義に対抗し、私たちの領域を広げる時です。何よりも、この不正義な組織構造の中で、私たちの立ち位置を確認し、その次に対抗勢力としての私たちの力を確認しなければなりません。その後、一つの強力な勢力として、私たちは互いの経験を共有し、学ばなければなりません。

世界的な平和運動をつくり、国際連帯勢力を作るためには国際的な単位でどのように権力が存在し、表れているのか把握することが求められます。インド、ブラジル、中国、そして韓国が新たな国際市場の一員として浮上しています。この25年間、米国が唯一の世界的権力をもっていた一元的構造から多元的構造に移る時代に私たちがいます。よって、各国の新たな同盟がつけられています。したがって、私たち平和運動勢力が、結合する支配勢力の制度に対抗する信ぴょう性ある解決方法を提示するためには、この多元的な複合性を理解すべきでしょう。私たちが属している組織や国のレベルを超えて、より大きな視野に立って私たちの位置づけをすべきです。私たちが属している複雑な網の目を一生懸命、目で追うよりも、より広い視野で自分の位置を理解し、私たち全員を結びつける、どの結び目を強化させるべきか確認する作業が必要でしょう。

世界中の最も重要な結び目の一つは、米国の対外政策です。アジア太平洋地域でみるならば、米国のリバランス政策は、私たちを共通の闘いに結び付けています。米国は最近、中国の経済的、

軍事的成長と、北朝鮮で続くミサイル実験を、この地域における米国の主導権強化のための口実に使っています。

米国の対外政策を主導しているのは何でしょうか。アジア回帰政策とは、いったい誰が率いているのでしょうか。ワシントン DC にあるブレーン集団として名高い「戦略国際問題研究所(CSIS)」がアジア回帰政策に大きな影響力を行使しています。今年の 1 月、「戦略国際問題研究所(CSIS)」は米国の対外政策関係者に「アジア太平洋地域へのリバランス(再均衡)戦略を検証する報告書 2025—可能性、実在、そしてパートナーシップ」というものを出しました。この文書で CSIS は今後 10 年間、回帰政策を成功させるために米国が注意すべき 4 つの主な事案を提示しました。私はこの 4 つについてご説明し、私なりの対抗策をお話したいと思います。この 4 つのことは、私たちの共同闘争のベースとなり、地政学的背景をみれば、より大きな連帯へと私たちを導いてくれると思います。

第一に、CSIS 報告書は、米国の指導者たちがアジアの回帰についてよく言及するのですが、しょっちゅう優先順位を変えて発言し、アジア諸国に大きな不安を与えているということを発見しました。これは、米国の指導者たちがアジア太平洋地域で何を主張すべきか、明確でないということを意味します。

-- これは平和運動勢力がこの不確実性を利用し、米国の主導権を妨害し、私たちの声、即ち平和の要求を作るチャンスです。皆でアジア太平洋地域の人々だけでなく、米国人にも恩恵を与える平和的な代案を提示する必要があります。米国はアジアで公開的、包括的で、原則に基づいた秩序を確立させると言っています。しかし、ご存知の通り、米国は自分たちが作り上げた国際制度すら守っていません。米国はイラク侵攻時に国連の許可を得なかったし、その家庭で原則に基づいた秩序の適法性を弱化させました。米国がこのような原則を守らなければ、どの国が守るのでしょうか。平和運動勢力は、国際的レベルで米国が犯している不正を正面から対抗する機会を利用しましょう。

第二番目に、CSIS 報告書は米国の指導者たちが同盟国とパートナーの力量、弾力性、相互運用性を強化させる努力を加速化させるべきだと述べています。米国が同盟国と軍事的な結びつきを強め、共同軍事訓練を実行させるという意味ですが、これは軍備の使用と地域紛争を加速化させようとするものです。

--これは暴力を引き起こす軍事的措置を減らし、最後には完全に中断させる機会を提示します。私たちは各国の政府と指導者たちに、共同軍事訓練を中断させるよう圧迫を加え、平和的な代案を示していくべきでしょう。

第三番目に、CSIS 報告書で米国はアジアに米軍配備を増やし、軍事力を増強すべきだと主張しています。これはより持続可能で長期的な米軍の存在誇示のため、沖縄の駐留軍を統合し、グアム

に軍施設を拡張建設し、オーストラリアに駐留軍を派兵し、韓国には先制攻撃のためのサードミサイルシステムを導入するところに表れています。

--- 自分の地域に入ってくる軍隊に抵抗している済州の江汀と、沖縄・辺野古などの地域社会に支持と連帯を送らなければなりません。カンジョン村では長い間、海軍基地建設に反対して闘ってきましたし、このような闘いの経験がある人たちから多くを学ぶことができます。このような経験の共有は、私たちが未来を予測し、より多く準備できるようにしてくれます。

第四番目に CSIS 報告書は、米国が米国の軍事力の概念と革新的力量の発展をさらに加速化させるべきだと発表しています。これは軍事の方針の素早い進化を激励し、先進的長距離ミサイルを開発、画期的なミサイル防衛に資金を投資し、追加的な航空戦闘システムを確保、米国の水中戦闘の優越性を活用させ、宇宙での戦争、サイバー戦争、電氣的戦争能力を高めようとするものです。

-- 私たちは各国政府に実験戦争の遂行中断と、軍備への研究開発費をなくすように求めていかなければなりません。当然にも節減された費用は、より有用なところに使えるでしょう。新たな軍隊を作ったり、新たなミサイル防衛システムを作ったりする代わりに、太陽光パネルや水力発電システムを作ることが出来ます。言い換えるなら、私たちは政府が行っている親軍事的な行動に対し、親平和的な代案を提示する必要があります。

これら 4 つのことは、共同の脅威となる米軍と関連し、アジアのほとんどの地域に該当します。もし、米軍がこの 4 つのことを達成するのに成功すれば、アジアの地域紛争は加速化されるでしょう。そして、米国、中国、ロシアなど強大国の紛争は想像に絶する結果を招くでしょう。

多くのアジア諸国を団結させる、もう一つについてお話したいと思います。アジアの多くの国々は、今逆説的な状況を経験しています。一方で、多くのアジア諸国は、経済的に中国と相互依存的関係にあり、逆に軍事的には米国と結びついています。中国との貿易を増加して経済的發展を図ろうとする一方で、米国から軍事的防衛の増加を図ろうとしているのです。個人的に一言いうならば、米国との貿易を増やす方が米国との防衛を増加させるより、危険は減るでしょう。韓国にサード配備を決定して、米国と中国は緊張状態にあります。サード配備は既に、中国とロシアの指導者たちを動揺させ、軍備競争を煽っています。中国と貿易を増加させるなら、そのような緊張が発生するでしょうか。中国との貿易に集中するのは、米国との防衛に集中させるより、相対的に危険が減ると思います。

最後に私たちは、成長する中国と既存の主導勢力だった米国との関係に集中すべきでしょう。この関係は 21 世紀の国際関係に大きな影響を与えるでしょう。この関係が出来るだけ、平和はものになるよう努力していかなければなりません。もし、この関係が紛争へと進むなら、21 世紀の間には解決できないでしょう。

共同の立場と共同闘争を確認し、互いの経験を共有し、平和のための代案を作ること、- 私たちはこれを地域レベルで、また世界的レベルで行っていかねばなりません。私たちは世界中で手を結び、地球の隅々まで平和でより良い世の中を作っていきます。

ありがとうございました。